

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070702602		
法人名	有限会社 星の里		
事業所名	グループホーム 星ヶ丘		
所在地 (電話番号)	北九州市八幡西区星ヶ丘3丁目5番21号 (電話) 093 - 617 - 4808		
評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4 - 6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成21年10月6日	評価確定日	平成21年11月13日

【情報提供票より】(平成21年9月18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年6月23日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	7 人	常勤 2人, 非常勤 5人, 常勤換算 3.5人	

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨プレハブ 造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 ~ 30,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	550 円	昼食 550 円
	夕食	550 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (9月18日現在)

利用者人数	6 名	男性	3 名	女性	3 名
要介護1	4 名	要介護2	1 名		
要介護3	1 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 76.5 歳	最低 67 歳	最高 89 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	香月中央病院・かつき脳外科整形外科・黒崎整形外科・あかま歯科クリニック・こがねまるクリニック
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム星ヶ丘は、民家改造型の事業所として定員6名という少人数で開設されており、6年目を迎えている。閑静な住宅街の中にあり、近隣には大型商業施設もある利便性を有している。日々の暮らしの中で、入居者一人ひとりの自己選択・自己決定を尊重した支援に努め、家族と思い、思われる関係づくりに取り組んでおり、少人数ならではの関わりの深い支援が行なわれている。医療との連携体制も充実しており、専門医への受診や医師・歯科医師・看護師による週1回の定期的な健康管理が行なわれており、入居者・家族の安心となっている。管理者は地域の方々や様々な関係者等、多くの方々を支えられていることを誇りに思い、また事業所が取り組んできた支援が認められてきた結果であるとも言える。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価での課題として職員育成の充実が求められており、継続して取り組んでいる。グループホーム協議会の中でも勉強会等に参加し、自己研鑽の場となるよう取り組んでいく意向である。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価作成にあたり、季節の花・野菜づくりや全員で楽しめる食事づくり等について意見があり、職員全員で協力し実現に向けて取り組む方向である。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回、定期開催されている。状況報告を行い、出席者の質問や助言が運営に活かされている。自己評価や評価結果についても報告し、意見を求めている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	運営推進会議に家族代表の出席があり、意見や要望を伺っている。入居時には書面及び口頭にて、苦情相談窓口やご意見箱の利用について説明している。苦情対応マニュアルを作成し、迅速な対応に努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームの存在を常に認識してもらい、入居者が地域の一員として暮していけるよう町内会の行事には積極的に参加している。また「こども110番」としての活動や、地域の高齢者に関する相談を受ける事もあり、地域との支えあう関係が築かれている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	地域密着型サービスの意義を踏まえた、独自の3項目の理念を創り掲げており、「地域の中で自立した生活を支援する」と明記されている。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	理念を玄関の目に付きやすい場所に掲げている。地域の高齢者を地域の方々と共に支えていきたいという思いから理念を作成しており、職員も支援の要と捉え、日々の支援に取り組んでいる。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	ホームの存在を常に認識してもらい、入居者が地域の一員として暮していけるよう町内会の行事には積極的に参加している。また「こども110番」としての活動や、地域の高齢者に関する相談を受ける事もあり、地域との支えあう関係が築かれている。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	前回の評価では職員育成の充実が求められており、ホームの課題として取り組んでいる。自己評価作成にあたっては、職員の意見を参考にしながら管理者により集約されている。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議は2ヶ月に1回、定期開催されている。状況報告を行い、出席者の質問や助言が運営に活かされている。自己評価や評価結果についても報告し、意見を求めている。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

グループホーム 星ヶ丘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	行政担当者との連携により、入居者の生活上の相談や、運営に関する助言を得て、サービスの向上に役立っている。毎月市民センターで行われる「ふれあい昼食会」には、全員で欠かさず出席している。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	現在、日常生活自立支援事業を活用している方がおり、関係者との連携や管理者による研修参加により知識を深め、支援につなげている。今後は、職員・家族への理解を育み、地域への情報発信等の取り組みにも期待したい。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	家族来訪時には必ず近況報告を行っている。毎月請求書を送付する際に、外出時などの写真を同封している。状況の変化等がある場合には、その都度電話連絡等を行っている。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	運営推進会議に家族代表の出席があり、意見や要望を伺っている。入居時には書面及び口頭にて、苦情相談窓口やご意見箱の利用について説明している。苦情対応マニュアルを作成し、迅速な対応に努めている。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	職員の離職はほとんど発生していない。定期的なミーティングで職員間の意見交換を行い、またストレス軽減に向けた取り組みも行いながら、働きやすい職場環境づくりが行われている。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	職員の採用にあたっては、特に制限や取り決めはない。入居者の方々が暮らしやすい場所は、職員が働きやすい場所でもありと考えており、その環境づくりに努めている。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

グループホーム 星ヶ丘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	人権尊重はホーム運営の基本であり、機会ある度に職員への確認を行っている。リビングには入居者の権利を掲示し、職員への周知徹底を図っている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	定期的なミーティングの際に、日々のケアに関する要点を根拠を示しながら説明する等、ケアの中での体験を学習につなげている。またグループホーム協議会主催の研修には、可能な限り参加を促している。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	管理者はグループホーム協議会の委員として活動しており、地域の事業者との良好な関係がある。今後は職員の参加を充実させることにより、他事業所の職員との交流や意見交換を行い、自己研鑽の場となるよう取り組む意向である。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	本人・家族が安心して入居できるように、要望や不安等を話しやすい雰囲気づくりや言葉掛けを心掛けている。また入居後にも日々のケアの中で活かせるよう努めている。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	理念の中で、「私達スタッフは、個々に入居された方みなさまを家族と思い、家族と思われるよう努めます」と掲げており、職員が実践することが、お互いを支えあう関係づくりに繋がっている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

グループホーム 星ヶ丘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	本人・家族の意向が尊重されるよう、コミュニケーションの機会を大切にしている。またセンター方式を活用して、生活歴や職歴、思いや意向の把握に努めている。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	本人・家族の意向や要望を反映するためにも、一人ひとりの状況の把握に努め、家族との連絡調整を図りながら職員間で共有し、本人本位の介護計画作成に努めている。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	定期的な見直しとともに、状況の変化がある場合には医師や看護師等との連携を図りながら、現状に即した計画となるよう見直しを行っている。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	少人数であるホームの特徴を最大限に活かし、生活活性化のための外出支援や地域との交流を積極的に支援している。医療連携体制による健康管理を行い、入居者の安心に繋がる支援は、積極的に柔軟に対応している。		
		本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	本人・家族の意向によるかかりつけ医を優先している。週1回、医師及び歯科医師による往診がある。認知症専門医との連携により、助言・指導を日々の支援に活かしている。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

グループホーム 星ヶ丘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	ホームとして「看取りに関する指針」を示し、同意を得ている。本人・家族が安心して暮していけるよう、医療関係者との連携を充実させ、日々の健康管理や急変時に対応できる体制の構築に努めている。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	日常生活でのプライバシーの確保について、職員全員が意識して、一人ひとりの尊厳を損なわない対応に努めている。個人情報の取り扱いについては法令順守に努めており、記録等の書類の保管・管理も十分に配慮している。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	自己選択・自己決定を尊重した支援を理念の中に掲げており、日々の暮らしの中で必ず意向を確認し、実践に努めている。消灯時間等は設けず、好きな時間に就寝し、好きな時間に起床できるよう柔軟に支援している。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	一日の栄養バランスに配慮し、入居者の方々と相談しながらその日のメニューを決めている。個々の力を活かして、後片付け等を手伝ってもらっている。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	基本的に週2回の入浴日を設けている。個浴で同性介助となっており、今後は入浴回数等に柔軟な対応ができるよう検討中である。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

グループホーム 星ヶ丘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	家族や友人への連絡(電話・手紙)が継続して行えるよう支援している。今後はプランターで季節の野菜や花を育てることを検討しており、役割づくりや楽しみごとにつなげて欲しい。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	散歩や外出は日々の生活の刺激となり、気分転換にもなるため、気候や状況にあわせて積極的に支援している。「有料老人ホームクレアール」への訪問交流や、市民センターで毎月行われる「ふれあい昼食会」への参加も入居者の方々の楽しみとなっている。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	基本的に日中鍵をかけないケアを実践している。外出傾向のある入居者の方には職員が寄り添い、見守りながら対応している。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	年2回の定期的な避難訓練を実施している。前年度は地域全体の避難訓練が実施されており、入居者の方々も混乱することなく参加することができた。地域の防災意識も高まっており、非常時には近隣の協力体制も確保されている。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	食生活推進員である職員により、食材の仕入れや調理指導がなされ、バランス等に配慮された食事の提供に努めている。水分摂取も一日を通じて計画的に支援しており、健康チェック表に記録している。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

グループホーム 星ヶ丘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	民家改造型のホームであり、家庭的な雰囲気に包まれている。リビングから対面式キッチンへと続く共用空間は清潔感があり、ソファの配置によりそれぞれの寛げる場所が確保されている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	各居室には個別の暖簾がかけられており、認識しやすい工夫がある。フローリングの床に大きな窓があり、採光や風通しの良い気持ちよく過ごせる空間となっている。自宅より馴染みの物が持ち込まれており、他の入居者を招き談笑する姿もあり、自然でゆったりとした時間が流れる光景があった。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			